

ちょうせんはんとう なんぼくぶんだんたいせい だ は とういつ せ かいかくめい ふ かけつ か だい
 朝鮮半島の南北分断体制打破＝統一は、プロレタリア世界革命の不可欠の課題
 かぎ にぎ あ べ だ とう に っ て い だ とう
 鍵を握るのは安倍打倒・日帝打倒だ
 かくめいてききょうさんしゅ ぎ しやどうめいせい じ きょく
 革命的 共産主義者同盟政治局

が っ に ち ちょうせんはんとう なんぼく わ ぐん じ きょうかいせん ほんもんでん なんぼくりょうせいけん しゅ
 4 月 27 日、朝鮮半島を南北に分かつ軍事境界線の板門店で南北両政権の首
 のう かいだん ひら きた ちょうせんろうどうとう い いんちよう は じ みなみがわ あし
 脳が会談を開いた。北のキムジョンウン朝鮮労働党委員長が初めて南側に足
 を 踏 み 入 れ、ムンジェイン韓国大統領と会談した。発表された共同宣言では、
 1 9 5 0 ～ 5 3 年 の 朝 鮮 戦 争 で の 休 戦 協 定 か ら 6 5 年 と な る 今 年、戦 争 を 終 結
 さ せ て 「 平 和 協 定 」 の 締 結 に 進 む こ と が 宣 言 さ れ た。ま た 「 南 と 北 は 完 全 な 非
 核 化 を 通 じ て、核 の な い 朝 鮮 半 島 を 実 現 す る 」 と い う 文 言 も 目 標 と し て 掲 げ ら
 れ た。続 いて ト ラ ン プ 米 大 統 領 と キ ム ジ ョ ン ウ ン と の 米 朝 首 脳 会 談 も セ ッ ト さ
 れ、今 や 朝 鮮 半 島 を め ぐ っ て、南 北 両 政 権 の み な ら ず 米 日 や 中 口 な どの 大 国
 が それ ぞ れ の 利 害 を か け て 激 し く 動 き 出 し て い る。世 界 史 を 揺 る が す こ の 事 態 に、
 革 共 同 は、闘 う 全 朝 鮮 人 民 と 連 帯 し、今 こ そ 反 帝 国 主 義 ・ 反 ス タ ー リ ン 主 義
 プ ロ レ タ リ ア 世 界 革 命 に 向 か っ て 突 き 進 む こ と を 宣 言 す る。

かんこく の 「 ろ う そ く 革 命 」 が た ぐ り 寄 せ た 歴 史 的 地 平

ま ず 最 初 に 確 認 し た い こ と は、戦 後 7 3 年 続 い た 帝 国 主 義 と ス タ ー リ ン 主 義 に
 よ る 朝 鮮 半 島 の 南 北 分 断 体 制 が、今 や 根 底 か ら 揺 ら ぐ 情 勢 に 突 入 し た と い う
 こ と で あ る。情 勢 を こ こ ま で 突 き 動 か し た 力 は 何 よ り も、パ ク ク ネ を 打 倒 し 監 獄
 に た た き 込 ん だ 韓 国 労 働 者 人 民 の 1 7 0 0 万 「 ろ う そ く 革 命 」 の う ね り と、そ の
 不 屈 の 継 続 ・ 発 展 に あ る。そ の 最 先 頭 に 立 つ 民 主 労 総 (全 国 民 主 労 働 組 合 総 連 盟)

の 2015 年 4 月 以来の波 状 的 な ゼ ネ ス ト 決 起 に あ る 。 こ の こ と が 、 過 去 に も
 何 度 か 繰 り 広 げ ら れ て き た 朝 鮮 半 島 を め ぐ る 「 対 話 」 「 協 議 」 と そ の 破 産 と は 、
 ま っ た く 違 う 情 勢 を 生 ん で い る 。

朝 鮮 半 島 の 南 北 分 断 体 制 と は 何 か 。 第 2 次 大 戦 の 終 結 後 、 日 本 帝 国 主 義 の
 植 民 地 支 配 か ら 解 放 さ れ た 朝 鮮 人 民 は 一 斉 に 「 人 民 共 和 国 」 の 樹 立 を 宣 言 し
 て 立 ち 上 が っ た 。 そ れ は 間 違 い な く 革 命 だ っ た 。 こ の 朝 鮮 に お け る 革 命 は し か
 し 、 帝 国 主 義 と ス タ ー リ ン 主 義 に よ る 戦 後 世 界 の 分 割 支 配 体 制 の も と で 圧 殺 さ れ
 た 。 北 緯 38 度 線 を 境 に 南 は 米 軍 が 、 北 は ソ 連 軍 が 占 領 し た の を 起 点 に 、 朝
 鮮 半 島 は 二 つ の 国 家 に 暴 力 的 に 引 き 裂 か れ た 。 そ の 分 断 は 、 朝 鮮 戦 争 で の 朝
 鮮 全 土 の 破 壊 と 400 ～ 500 万 人 に も 達 す る 膨 大 な 血 の 犠 牲 の 上 に 、 半 永 久 的
 に 固 定 化 さ れ た 。

以 来 、 今 日 ま で 続 く 38 度 線 で の 軍 事 的 対 峙 と 緊 張 こ そ 、 戦 後 一 貫 し て 南 北
 朝 鮮 人 民 は も と よ り 、 東 ア ジ ア の 労 働 者 人 民 全 体 を そ の も と に 縛 り つ け て き た
 あ ら ゆ る 抑 圧 と 支 配 の 根 源 で あ る 。 38 度 線 と は 反 革 命 の 象 徴 だ っ た の だ 。

民 主 労 総 を 先 頭 と す る 韓 国 人 民 は 、 こ の 南 北 分 断 体 制 の 一 方 の 柱 で あ っ た パ
 ク ナ 政 権 を 実 力 で 打 倒 し 、 続 い て イ ミ ヨ ン バ ク 元 大 統 領 を も 監 獄 に ぶ ち 込 ん
 だ 。 「 積 弊 清 算 」 を 掲 げ て 社 会 の 全 面 的 ・ 根 底 的 な 変 革 を 求 め る 闘 い が 、 つ い
 に 分 断 の 歴 史 に 終 止 符 を 打 つ こ と を 求 め る 巨 大 な 力 と な っ て 噴 出 し 始 め た 。

こ の 力 が 南 北 の 両 政 権 に 首 脳 会 談 を 強 制 し て 、 「 板 門 店 宣 言 」 を 出 さ せ た 原
 動 力 で あ る 。 「 南 北 の 民 衆 が 力 を 合 わ せ れ ば 軍 事 境 界 線 な ど 一 瞬 に し て ぶ
 っ 飛 ば せ る ! 」 ——— こ の 声 が 今 や ソ ウ ル の 街 に あ ふ れ て い る 。

民 主 労 総 は 即 座 に 声 明 を 発 表 し 、 歴 史 を 動 か す の は 労 働 者 階 級 の 闘 い で あ
 る こ と を 確 認 す る と と も に 、 南 北 の 統 一 を 最 終 的 に な し と げ る た め に は 、 米 帝

や日帝をはじめ「朝鮮半島の統一と平和を望まない」全勢力と徹底的に闘いぬくことが不可欠であると宣言した。そして直ちにムンジェイン政権をものりこえる新たな闘いに突入した。

民主労総と連帯し、ともに戦後革命の敗北をのりこえて進む時がついに来た。朝鮮半島の真の統一は、分断を強いてきた元凶である帝国主義とスターリン主義をともに打倒することによってこそかちとられる。革共同は綱領草案で次のように宣言してきた。

「日本革命の勝利は、朝鮮半島の南北分断体制打破・革命的統一をめざす朝鮮プロレタリアートの闘いと連帯し、また中国スターリン主義打倒をめざす中国プロレタリアートの闘いと連帯してかちとられる。そしてこの勝利は、帝国主義の総本山であるアメリカ帝国主義打倒へ向けたアメリカ労働者階級の歴史的決起と結合して、今日の大恐慌をプロレタリア世界革命の勝利に転化する突破口となる」(綱領草案第 13 項)

この綱領を今こそ実践しぬくために立ち上がろう。

戦争の危機は続いているとどめ刺す闘いに立とう

南北首脳会談・板門店宣言と、続く米朝首脳会談への動きが示すものは、韓国で始まった革命のうねりが全朝鮮半島に、さらには東アジア全域に波及することへの帝国主義者とスターリン主義者の恐怖である。とりわけ米帝・トランプ政権と北朝鮮・キムジョンウン政権自身の体制的危機の激しい進行である。

トランプ政権は昨年 12 月のNSS (国家安保戦略) と本年 2 月のNPR (核戦略の見直し) で、核兵器を実際に使う方針を公然と打ち出した。「核先制攻撃」

をも口にして、キムジョンウン政権の軍事的転覆を狙う「斬首作戦」などの演習を繰り返してきた。キムジョンウン政権はこれに対抗して核兵器と ICBM（大陸間弾道ミサイル）の保有・強化に全力を挙げてきた。これらはいくつ先日のことだ。南北・米朝会談でこの朝鮮戦争・核戦争の危機が去ったわけでは断じてない。現在の「対話・融和」ムードがいつ、何をきっかけとして暗転してもおかしくない。

朝鮮半島での一触即発の戦争の危機をもたらしていた元凶は、トランプと日帝・安倍による北朝鮮の体制転覆を狙った侵略戦争策動だ。「非核化」へのキムジョンウンの「路線転換」は、このままでは自らの政権がもたないという絶望的な危機に追いつめられた結果である。だが米日帝国主義の側もまた、新自由主義の破産と崩壊のもとの積もりにも積もった矛盾と危機の爆発によって、政権崩壊のふちに立たされている。

その背後には、リーマン・ショックをも超える世界大恐慌の新たな爆発が不可避となる中で、米英独仏日などの帝国主義列強に中国スターリン主義やロシアを加えた資源・市場・勢力圏の強奪戦がますます激化している情勢がある。それはすでに貿易戦争として火を噴き、東アジア・中東・ウクライナを最大の焦点として、新たな世界戦争（第3次大戦）へと急速に転化し始めている。しかもそれは核戦争の危機でもある。

すでに各国が核軍拡・核武装を含めた大軍拡競争にのめり込んでいる中で、米朝会談はそれを本質的にはますます促進していくものとなる。実際に、板門店宣言における「核のない朝鮮半島」という文言にもかかわらず、米帝・トランプも韓国・ムンジェインも、「在韓米軍の完全撤退」要求には応じない態度を明確にしている。また北朝鮮は「核完全放棄」に伴い中国の「核の傘」の下

はい と ざ た に入ることも取り沙汰されているが、それ自身じしんが東アジアひがしにおける新たな軍事あら的緊張ぐんじを呼び起こすものだ。

民主労総みんしゆろうそうの闘たたかいが最先頭さいせんとうで示しめしたように、世界の労働者せかい ろうどうしゃの団結だんけつした行動こうどうだけが戦争せんそうを止める唯一ゆいいつの力ちからだ。朝鮮戦争ちょうせんせんそうを「始まる前はじ まえに止める」第一歩だいいつ ぽがかちとられた今こそ、日韓米いまを軸につかんべいとする戦争絶対阻止せんそうぜったい そ しの国際連帯闘争こくさいれんたいとうそうをさらに大きく発展おおさせよう。戦争はっに突き進む自国政府てんとの絶対非和解せんそう つ すすの闘じこくせいふいをどこまでも貫ぜったい ひ わ かいこう。帝国主義戦争たていこくしゆ ぎ せんそうを内乱ないらんに転化てん かした1917年のロシア革命ねんに続く歴史的な闘かくめい つづいへと突き進れきしてき たたかもう。

かいけん 改憲にしがみつく安倍あべの打倒だとうは日本労働者にほん ろうどうしゃの任務にんむ

なか さいだい き き ふか この中で最大の危機かんこくじんみんを深め、韓国人民たたかの闘あつさついの圧殺ちょうせんしんりやくせんそうと朝鮮侵略戦争しょうへの衝動しやうをますますのらせているのが日帝・安倍政権にっぺい あべせいけんである。

あべせいけん 安倍政権あべせいけんこそ、朝鮮半島ちょうせんはんとうでの戦争せんそうをトランプ以上いじょうにあおり、けしかけてきた張本人ちやうほんにんだ。9条改憲じやうかいけんと戦争国家化せんそうこっ かへの道みちをこじあけるために北朝鮮脅威論きたちやうせんきやう いろんをあおり、圧力あつりよくと制裁せいさいの強化きやう かを誰だれよりも声高こわだかに叫さけんできた。Jアラートぜんこく（全国瞬時警報システムしゆん じけいほう）を使つかった避難訓練ひなんくんれんを全国ぜんこくの自治体じちたいなどに強制きやうせいし、排外主義はいがいしゆぎを徹底的てっていてきにあおり組織そしきしてきた。原発事故げんぱつじを「終わった」ことおにして福島ふくしまを切り捨きてる攻撃こうげきも、原発再稼働げんぱつさい か どうと日帝自身にっぺい じしんの核武装かくぶそうを狙ねらう策動さくどうだ。

こんかい 今回こんかいの南北会談なんぼくかいだん—米朝会談べいちやうかいだんプロセスから日帝にっぺいは完全かんぜんにはじき飛ばとされた。今や安倍政権いま あべせいけんの極悪ごくあくの戦争放火者せんそうほう か しゃとしての正体しょうたいが全世界ぜんせいに暴かれ、安倍あべは国際的こくさいてきにも孤立こりつを深めふかている。「拉致問題解決らちもんだいかいけつ」を叫さけんでの介入かいにゆう策動さくどうもまったく相手あいてにされていない。相次ぐ腐敗あいつ ふうはいの暴露ばくろで、昨年5月に安倍さくねん がつ あべが叫さけんだ「20

20年改憲プラン」そのものも破産しかかっている。

だが、だからこそ安倍と日帝ブルジョアジーは、改憲・戦争攻撃の一点に帝国主義としての生き残りのすべてをかけて、なりふり構わず突き進む以外にない。

「改憲のできない安倍」「戦争のできない日帝」は倒れる以外にないからだ。

「安倍を監獄へ！」——安倍政権打倒は今や、日本国内のみならず、アジア人民、世界人民の声となりつつある。韓国・釜山では、日本領事館前の「少女像」横への「徴用工像」の設置をめぐり、日帝による侵略は二度と許さないとする労働者民衆の決起が機動隊との激突となって巻き起こっている。米軍のサード(HAAD=高高度迎撃ミサイルシステム)配備の現地では、サードの全面撤去を求める実力闘争が始まった。韓国労働者人民の闘いは、ブルジョア政権であるムンジェイン政権との激突をもはらんで、さらに前進しようとしているのだ。

今こそ日本労働者階級の本格的決起をかちとろう！ それこそが最大の連帯の道だ。勝利への真の展望を切り開くものだ。

民主労総を先頭とする南北朝鮮人民との国境を越えた団結を形成し、朝鮮革命と日本革命—東アジア革命を一体の闘いとして、ともに世界革命へ向かっての前進を開始しよう。日帝植民地支配との闘いに始まり、戦後の南北分断という帝国主義とスターリン主義による巨大な反革命とも断固対決し、不屈に闘いぬいてきた朝鮮労働者人民の生きた闘いから学び、それに応える日本の地からの闘いをつくりだそう。在日を含めた全朝鮮人民の「統一」にかける思いにくはく肉薄しよう。それは日本の労働者階級が階級性＝国際性を取り戻すこととも一体だ。

今や日本共産党をはじめとする全野党、体制内改良主義を掲げてきた全勢力が愛国主義・排外主義・国家主義を深め、雪崩を打って改憲・戦争翼賛勢力に

てんらく 転落している。その一方で、 J R 東 労組や連合の分裂・崩壊 情勢が示すよう
 について ろうどうしゃ 労働者 支配は大崩壊を開始した。膨大な人民が安倍への怒りを煮えた
 ぎらせ、行動を求めて必死に動き出している。

どうろうそうれんごう せんとう 闘労総連合を先頭とする階級 的労働運動が一切の任務と課題を引き受け、闘
 さいせんとう おど で いの最先頭に躍り出て、「改憲・戦争阻止！大行進」運動を全労働者人民の新た
 たいしゅうてきけつしゅうじく う た な大衆的結集軸として打ち立てよう。

かくきょうどう たたか ろうどうしゃ がくせい じんみん 革共同は、すべての闘う労働者、学生、人民とともに、安倍打倒・改憲阻止
 けっせん の決戦をプロレタリア日本革命への突破口として闘う。ゼネストと国際連帯で
 せんそう そし かんこく 民主労総と団結して「反帝国主義・反スターリン主義プロ
 レタリア世界革命」の勝利に向かって前進しよう！